



徳嶺勝信

11月のベトナム・ホーチミンは雨期から乾期に代わる時期を迎える。南北に長いベトナムでは北と南では気候が違い、南のホーチミンは半年ごとに乾期と雨期に分かれる。北は沖縄と同じような亜熱帯気候になる。

現在、ベトナムは東南アジア諸国連合(ASEAN)経済共同体と環太平洋連携協定(TTP)のスタートを見据え、日本を含む諸外国からの注目が日に日に増している。経済も上り調子で海外からの進出も目を見張るものがある。

日本人、日本企業もこの1年で急激に増えた。日本人をターゲットとしたビジネスも増え、納豆や豆腐などの日本食品も多くなった。特に豆腐(日本風)はベトナム人にも新しい食材として受け入れられており、仕掛け方次第では今後さらに新しい日本ブランドがベトナムで広がっていくだろう。

ベトナム人をターゲットにした海外小売業の進出も多く、特に飲食店も増加している、個人的には県人が経営している沖縄居酒屋が

沖縄居酒屋 勝負できる

ベトナム

ないのは少し残念だ。沖縄と変わらない食材も仕入れられる上、ベトナムと沖縄の料理はとても似ているので違和感なくベトナム市場で勝負できる。

イベントも多彩で11月21、22日にホーチミンで和僑世界大会が開催された。和僑とは海外で起業、日本に拠点を置くが海外展開をしている、もしくは検討している企業家が集まった組織で、アジアを中心に29の国と地域で約千人の会員がいる。沖縄にも沖縄和僑会があり和僑会ネットワークを生かし、海外とのビジネス展開に役立っている。

和僑世界大会は1年に1度、和協会のある地域で開催される。開催地でのビジネスの可能性を探ったり、各地域の会員とビジネス交流をしたりする。

今回の参加者は400人以上。ホーチミン日本総領事館の中嶋敏総領事、ホーチミン市共産党のヴォ・バン・テュオン常任副書記を含むそうそうたる来賓を迎え盛大に開催された。沖縄からも総勢20人が参加。各地域の会員と交流を図り、今後の海外でのビジネス展開を模索していた。海外進出が増える中、和僑会のような海外でコミュニティを形成している組織は役割を増していくだろう。(ベトナム・JES代表)

次回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。